

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2012年12月1日
(No. 68・今年はどんな年だった?号)

2012
*
12月

NPO法人エコシティ志木

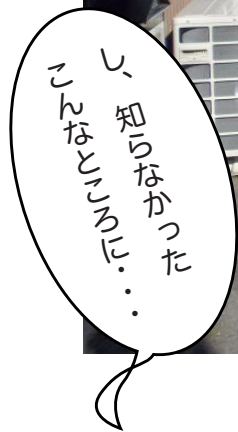
代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞



勝手にレッドデータ of 志木 (54)

野火止用水の跡

志木には野火止用水やその分水路が何本も流れていました。流れが止まり水路が埋められてもあちこちに痕跡が残っていましたが、それも少しずつ消えつつあります。

拡幅工事の中の本町通りの傍らを流れていた本流の跡は歩道に痕跡を残していましたが。栄橋に向かって右側が単にガードレールで区切られただけなのに対し、左側は一段上がった歩道に低いフェンスが付いていますが、ここが用水路の跡です。現在工事中の工区と、続く駅寄りの工区もやがて無くなります。

(天田 眞)

10/2
(火)

志木小学校・屋上ビオトープの植生調査

10月2日に志木小学校・屋上ビオトープの植生調査を行いました。

背丈ほどの草と木に覆われた中心部分は、周りからは見え難く、草木をかき分けて入って行くのも楽しいものです。ここには、小さな水路と池や湿地も設けられていて、アシ・ガマ等の水辺の植物も見ることが出来ます。水路は、草が覆っていて水を確認しにくい状況になってきており、手の入れ方を考える必要がありそうです。

中心付近にいと、フェンスや建物も草木に隠れて、ちょっぴり自然の中にいる様な気分も味わえます。野鳥がこの木に飛んで来てくれないかと思いつつ、草木や樹木を見て回りました。

春に見てみたい梅・桜・ツツジの木や、どんぐりの実がなるクヌギやコナラ等 46 種類の樹木とキンミズヒキ・ススキ・セリ等 48 種類の草本が確認出来ました。

また、アカボシゴマダラ・アゲハ・ツバメシジミ・

ショウリョウバッタ等の昆虫も観察出来ました。

屋上という構造上の制約もあり、大きな樹木に育てる事はできませんが、子供たちが身近に触れる事ができるこの小さな自然環境を大切にしていきたいと思います。
(青木明雄)



10/7
(日)

朝霞の湧水を見学し、地元のうどんを食べる会



水塚の文化研究会のメンバー 10 名と、案内をお願いした「あさか環境会議」の明山^{あけやま}さんと一緒に志木駅南口から朝霞駅行きのバスに乗り込みスタートしました。

朝霞市には、志木とも続く崖線に沿って湧水が多くあり、このうちの岡三丁目の「湧水代官水」が昨年、朝霞市天然記念物に指定されています。

東円寺前でバスを降り、まず境内の斜面下にある不動の滝、続いて明山さんの案内で岡の斜面林と水量豊かな湧水を見学。岡三丁目の斜面林は、あさか環境会議のメンバーが市から委託を受け下草刈り・剪定などの管理をしています。

続いて訪れた国指定重要文化財「旧高橋家住宅」は台地の端に位置し、約 300 年前の享保年間に建てられた江戸時代の本百姓の家「朝霞市職員・三井田さん」だそうです。庭には深さ 10 メートルの井戸があり、谷津に面する裏の斜面にも豊かな湧水がありました。そして鬼門の位置には水神様の祠も。暮らしに欠かせない水。それが得やすい台地と低地の境は人が暮らすには絶好の場所だったのでしょう。

朝霞の豊かな湧水と水との暮らしを訪ねるツアーは、根岸台にある「麵処更級」のうどんに舌鼓を打ち無事終了となりました。
(毛利将範)

11/4
(日)

アレチウリ除去作業の検証を行いました

当会では埼玉県生態系保護協会志木支部や志木中学校などと協力して、柳瀬川河川敷の外来植物駆除作業をおこなっています。11月4日(日)午後、特に今後のアレチウリ駆除に活かすことを目的に、今年の駆除作業検証のための現地踏査をおこないました。

柳瀬川河川敷は年間を通じて緑に覆われ一見良好な環境に見えますが、近年特にアレチウリやセイバンモロコシなど時期・場所を変えながら1種類の外来種により全域が覆われ、他の植物の生育を阻害してしまう現象が目立ちます。これは生物多様性の観点からも地域本来の自然のすがたからも好ましいことではありません。

当会などでは、特に被害の大きいオオブタクサ〈要注意外来生物〉とアレチウリ〈特定外来生物〉を重点的に駆除しています。

オオブタクサは、その勢いが目立ち始めた1998年から、特に志木中学校の生徒さんたちの協力を得て毎年定期的な駆除作業をおこなっており、その効果もあってか従来ほどの勢いは無く



アレチウリの太く長い根っこを持って(9/16 大型外来植物駆除作戦)

なってきたように思えます。それに代わって近年特に目立つのがアレチウリ。アレチウリは一つの株からツルが枝分かれしながらどんどん伸び一面を覆ってしまいます。覆われた植物は光を奪われ枯れてしまいます。また、一度駆除してもすぐに新しく発芽してくるのでやっかいです。



柳瀬川での外来植物駆除作業区間(基図:ゼンリン地図データ)

今年は定例の「柳瀬川・大型外来植物駆除作戦」4回(6/17・7/15・8/19・9/16、延べ60名参加)に加え、特別に有志によるアレチウリ駆除7回(8/7・8/12・8/14・8/21・8/26・9/4・9/9、延べ37名参加)で、志木大橋から高橋までの約2km、水際を中心に作業をおこないました。

11月4日の現地踏査ではそれらの作業、特に今年の夏の猛暑時期の、少人数による特別作業(苦行?)をふまえて検証しました。それによるとアレチウリに対する今年の精力的な駆除作業の成果は確実に認められました。さらに今後効果的な駆除を進めるためとして以下のような教訓・課題が提起されました。

- ① アレチウリを引き抜きやすい時期を見極め作業予定を組む
- ② 参加人数を増やすために、募集方法・作業プログラムの工夫をする
- ③ オギ・ヨシ群落を護るために重点的な駆除作業が必要
- ④ 水際に土砂がたまり自然堤防が形成され、川の水が高水敷に上がりにくくなり河川敷の乾燥化が進んでいる
- ⑤ なんのために何を駆除しているのか、認知度を上げる

そして以上に対して、学校とのさらなる連携・看板の設置・作業プログラムに楽しめるものも加えるなど具体的な提案も出されました。今年の駆除作業と検証をふまえ、来年度以降の駆除プログラム立案・実践に活かしていく予定です。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(毛利将範)

11/4
(日)

こどもとおとなの自然塾

ドングリと落ち葉で遊ぼう

秋晴れの晴天に恵まれ、9時に集まった子どもと保護者の方たちは柳瀬川駅前を出発しドングリと落ち葉の採集に向かいました。柳瀬川図書館前とニュータウンの公園などで袋にたくさんのドングリと落葉を集めることができました。

次に柳瀬川図書館の2階で工作を始めます。

工作は①落ち葉のフロッタージュ。葉の上に紙を置き、色鉛筆やクレヨンでなぞると葉が浮き出てきます。②落ち葉に絵の具で色をつけ、紙に押し当てると葉の印刷ができます。③松ぼっくりの傘に絵具で色を付け、多色のクリスマスツリーをつくります。④ドングリに目や鼻をポスカなどで書き人形にします。この4種類をつくりました。

工作は簡単な作業でできるよう工夫してありますので、子供たちはそれぞれ楽しみながら芸術的で個性的な作品を作っていました。作品はおみやげとして家に持ち帰り、壁に貼ったり、置物にすると話していました。

今年が初めての企画でしたが子ども、おとなともに楽しんで工作ができたように思います。来年もこどもとおとなの自然塾「ドングリと落ち葉であそぼう」を企画したいと考えています。場所は天候に左右されない、今年と同じ柳瀬川図書館でできればと思っていますので、是非ご参加ください。

(加藤健二)



(写真：毛利将範)

小学校の学習支援

柳瀬川での自然環境学習に協力しました



志木小学校の総合学習のようす

志木市内の小学校では、自分たちの住んでいる地域について学ぶ総合学習の時間があります。当会では、学校の依頼にもとづいて柳瀬川をフィールドにした授業のお手伝いをしています。

◆宗岡三小5年生約70名 7月1回、10月2回

◆志木三小3年生約100名 10月に2回

◆志木小5年生約130名 10月～11月

天田代表から柳瀬川が狭山湖の近くに源流があり、そこから新河岸川と合流し隅田川を経て海に

注ぐこと。柳瀬川の水は雨水や地下水だけでなく、東京都の下水処理場で処理された水が半分以上を占めていることなど、水の循環の話があります。

川に入って魚や水生昆虫を捕っての生き物調べには、子供たちは大変興味を持って活動していました。捕れる魚はウキゴリ、ヌマチチブ、ギンブナ、クチボソなどで、その他ヌマエビやテナガエビなども捕れます。マハゼが捕れることもあり柳瀬川が海と繋がっていることが実感できることもあります。

また陸の動植物については、食物連鎖と生態系ピラミッドの話を中心に、自然界にはゴミがないこと、最近の河原にはオオブタクサ、アレチウリ、セイバンモロコシなどの繁殖力が旺盛な外来植物に占拠され、背丈の低い植物や在来の植物が育ちにくくなっていることを知ってもらいました。

子供たちに豊かな自然の大切さを少しでも知ってもらえたらと願っています。

(山崎光久)

10/12 (金) ~ 14 (日)

いろはふれあい祭り

11/18 (日)

志木市民まつり

10月12日(金)～14日(日)に、いろは遊学館で開催された『いろはふれあい祭り』は10周年記念コンサートや各体験ブースで賑わいを見せていました。

当会では「出前水族館」と、水塚調査報告や外来植物駆除活動のパネル、ドングリ作品の展示等を行いました。

スタンプラリーの通過地点となっていて、子どもたちのグループやご家族連れが次々に柳瀬川の魚たちを見に来られました。吸盤状の腹びれで水槽の側面に貼り付いているヌマチチブ、伸びたり縮んだりしているヒル等に驚きの声が上がっていました。大人の方々からは、ご自身の川遊び体験や地域の昔の様子も伺うことが出来ました。水塚のパネル展示も好評でした。

11月18日(日)には『志木市民まつり・かっぱだよ!全員集合!』が開催され、カッピー・カパルを始めとするゆるキャラが集合。模擬店も多数出店し大盛況でした。

当会は、水族館展示とドングリ工作コーナーをコミュニティ協議会のテントに出展しました。

工作希望者が大変多く、閉会間際まで満席状態が続きました。ドングリや落ち葉に顔を描いたり色を塗ったり、小さいお子さんは葉っぱを越えて色が伸びて行ったり…夢中で作られ、かわいい作品がたくさん出来上がりました。作品をそおっと大事に仕舞われ、皆さんが笑顔で帰られました。

(大田文佳)



志木市民まつり「どんぐり工作コーナー」(写真:天田眞)

10/13 (土)

辻銀杏(つむじいちょう)で街あわせ



遊学館のふれあい祭りと日程が重なり忙しくなりましたが、今年も『辻銀杏(つむじいちょう)で街あわせ』に参加しました。志木ニュータウンペアも一商店街の空き店舗を利用し、商店会の支援を受けながら、参加者の手づくりで企画運営してきたこのイベントも今年4回目となり、すっ

かり定着した感があります。今年は3つの会場でフリーマーケット、被災地支援のチャリティー試飲会、ライブ演奏、ゲームなどが行われました。

毎回「身近な自然博物館」と題して身近な場(ほとんどが志木市内)で見つけた自然の痕跡を展示していますが、今年は約50種類の標本を展示しました。スズメバチやアシナガバチの巣・いろいろな昆虫の抜け殻(アゲハ・チョウ・ガ・セミ・トンボ)・アオダイショウの抜け殻・イモムシに寄生する寄生バチの繭・ミノムシの蓑・ケムシの卵の抜け殻・トックリバチの巣・カタツムリの殻・いろいろな虫こぶ・乾燥したキノコ・風で落ちたメジロの巣・・・ 普通は気に留められることのないようなものを集めた展示です。

今年は、運営主体の「たてのよこいと」代表の藤井さんの提案・協力でわかりやすく楽しい展示ができました。

(天田 眞)

新河岸川改修により切り離された旧河道

NPO法人エコシティ志木代表理事

天田 眞



① 袋橋上流側の水路

大正～昭和の改修工事

昔から氾濫を繰り返してきた荒川と新河岸川では、1910（明治 43）年の大洪水を契機に、共に本格的な改修工事が行われました。

荒川では、北区岩淵から東京湾まで荒川放水路（現荒川）が新たに開削され、それより上流では、蛇行した水路の直線化、広い高水敷（河川敷）を確保した上での堤防の築造、横堤（流れに直角に築いた堤防）の築造等が行われました。

新河岸川の改修工事は 1922（大正 11）年に着工され 1930（昭和 5）年に竣工しました。主な工事は、朝霞の下内間木（現在の外環道幸魂大橋のすぐ上流）で荒川に合流していたものを分離し、北区岩淵まで新たな開削により流路を延長することと、九十九曲りと呼ばれた蛇行を直線化し、両

岸に堤防を築造すること。また、それまで行われてきた舟運の便を図るための施設の築造も併せて行われました。

著しい蛇行のため水の流れが悪いのを改め、直線化により洪水を出来るだけ早く海まで流してしまおうという考えです。また、荒川との合流点を閉じることにより、荒川から新河岸川への逆流を防ぐことでした。

工事の上流側の起点は、入間郡南古谷村大字牛子、現在の新河岸駅の東方 700m の旭橋付近で、当時の荒川合流点までの距離は約 27km。それに対し、直線化後の同区間の距離は約 17km となり、約 3 分の 2 の長さになったことになります。



② 袋橋下流側の水路



③ いろうは橋下流の広場



④ 富士下橋下流の水田

切り離された旧河道はどうなったか

既に工事から84年の年月を数えますが、直線化で切り離された約10kmの河道は今どうなっているでしょうか。

上流側では新河岸川左岸の川崎橋から養老橋にかけて（川越市とふじみ野市の境界）、及び、新河岸川放水路の中ほどから新伊佐島橋にかけて（富士見市とふじみ野市の境界）の合計2か所に旧河道が残っています。いずれも水田地帯で雨水や水田の排水路としての機能を果たしています。また富士見市の木染橋下流右岸の斜面林の下では水たまり状になっています。

下流側では新河岸川左岸の朝霞市上内間木の武蔵野線や内間木公園付近に、複雑に蛇行していた跡が水たまりや雨水排水路として残り、また、右岸の田島2丁目では釣り堀の池になっています。

志木周辺の旧河道は

志木市内でも旧河道の跡が見られ、現在も水の流れているところもあれば土地利用に川の名残を残しているところもあります。

① 新河岸川右岸、袋橋上流側の水路（上宗岡2丁目と富士見市水谷東1丁目の境界）

流れている水は周辺部及び浦和所沢バイパス北側の雨水排水の他、斜面林下からの湧水も含まれています。流れの方向が改修前とは逆になっています。

② 新河岸川右岸、袋橋下流側の水路（上宗岡2丁目と富士見市水谷東3丁目の境界）

流れている水は周辺部及び柳瀬川左岸の「水谷田んぼ」の雨水・水田排水です。新河岸川への流末には別所排水機場が設けられています（富士見市の管理）。

③ いろは橋下流左岸のイベント広場

昨年、県の水辺再生事業で完成したイベント広場の周囲の堤防が丸くカーブしています。ここは新河岸川が大きく蛇行し三日月湖状になり、江戸時代の堤防がそれに合わせて丸くカーブしていたところですが、現在の堤防もそれに合わせています。

④ 富士下橋下流左岸の江戸時代の堤防と現堤防に挟まれた水田

江戸時代の旧堤防が丸くカーブしていますが、これも③と同じく、蛇行した川が三日月湖状になっていたところで、現在の堤防ができる前は旧河道跡が池になっていました。

⑤ 宮戸橋右岸のみつばすみれ学園敷地

朝霞・志木・和光の3市が設立した社会福祉法人が運営する障がい者施設ですが、右岸の朝霞市の中に、この敷地だけが志木市の飛び地のように入っていて、旧河道を埋め立てた跡です。

⑥ 宮戸橋下流左岸の釣り堀ひのつめ園

⑤とは逆に志木市の中に朝霞市が入りこんでいて、池の部分が旧河道の跡（両市の境界）です。10数年前まで、池は隣接の宗岡三小グラウンドの縁の位置にありました。

⑦ 下ノ氷川神社脇の水路

宗岡二中の周囲を流れる赤野毛排水路は、朝霞市上内間木を約800m程流れ、新河岸川に排水されていますが、氷川神社前から下流が旧河道になります。

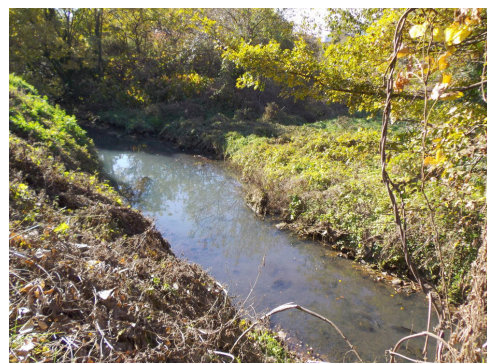
これらの他、地図上でしかわかりませんが、袋橋上流左岸の千光寺裏、宗岡四小のグラウンド、新宮戸橋から宗岡二中にかけての市の境界線が旧河道跡になります。また、志木市役所の敷地も旧河道跡にあたりますが、現在の富士見市との境界線は変更されています。



⑤ みつばすみれ学園



⑥ 釣り堀ひのつめ園



⑦ 赤野毛排水下流

9/2
(日)

群馬県板倉町バス見学会

参加者は、当会の水塚の文化研究会メンバー9名と柳瀬川上流部で活動する「川づくり・清瀬の会」(東京都清瀬市)のメンバー7名。

板倉町は、北に渡良瀬川、南に利根川、その間に谷田川などが流れる低湿地にあり、古くから川の恵みを受けるとともに「大水」に対する様々な知恵や文化を発展させた、志木とも似た地域です。

板倉町文化財資料館では、町教育委員会の宮田裕紀枝さんに熱く解説していただきました。水塚の模型や解説パネルなどはすべて住民有志による手作り！ 現代とのつながりが見えるような、そんな心遣いが感じられる展示になっていると思いました。

板倉町には水塚が100基以上現存しています。私たちが訪問した江田家の水塚は、塚がかなり高く盛られ5メートル以上はあるようです。納屋の軒下には水が出たときの避難などに使う「揚舟^{あげぶね}」が吊られていました。

農家に保管されていた揚舟を使ったクルージン



グは板倉町の観光目玉の一つです。また、谷田川^{かわだ}添いの「川田」や沈下橋など、板倉町全体の豊かな水辺の自然と文化遺産が「利根川・渡良瀬川合流地域の水場景観」として、2011年に関東地方で初めて「国選定の重要文化的景観」に指定されています。その推進力となったのが、今回案内していただいた宮田さんや町民有志の息の長い活動であったということがこの見学会でよく分かりました。(毛利将範)

11/3
(土)

志木ぶらり散歩

宗岡の水との生活と語り部を訪ねて



当会メンバーや一般参加者の他に東上まちづくりフォーラム、日本建築学会関東支部埼玉支所会員も含め20名が参加。

今回は「景観資源」と「語り部」をキーワードに、宗岡の水にかかわる生活の「文化的景観」を再発見・再認識することを目的とするとともに、当会メンバーが交代で説明し、さらに水塚所有者の方から詳しくお話を伺いました。

コースとしては、三代の堤防・朝霞水路・下ノ水川神社・塚樋・水塚など水にかかわる景観資源の他、道々の自然観察もぶらり散歩の特徴です。また、今回はメンバーが交代で説明したので、新しい視点での新鮮な驚きと発見がありました。

「明治43年の大水のときは、おばあちゃん乳呑み児抱えてね、お姉さんの嫁ぎ先の浜崎に舟で避難したんですって。なんかもう凄い流れでね。渦巻いててね。乗りだした舟っていう言葉があるけれども、こんな舟乗らなきゃよかったって…」というような、水塚所有者・金子久子さん(79歳)の語りも興味深くお伺いできました。

9月の板倉町見学会で得たものを参考にして、志木・宗岡地区でも地域の「文化的景観」として総合的にとらえることを心がけました。志木まるごと博物館の実践としてさらに一歩前進できればと思っています。(毛利将範)

生き物情報は→ ファクス 048-471-4275 e-mail : qwj11624@nifty.com (毛利) へ
ホームページ「発見!! 街の自然」<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

- ◆モクズガニ(1)→8月19日(日)柳瀬川で。脱皮したばかりか、やわらか[伊藤智明]
- ◆クマゼミ(鳴き声)→8月26日(日)朝9時頃。いろは親水公園こもれびのこみち斜面林[毛利将範]
- ◆アオダイショウ(幼生1)→8月27日(月)本町4の自宅で。今年も生まれてるんだ、ということで嬉しかったです[寺田明子]
- ◆コガネグモ(1)→9月4日(火)柳瀬川右岸・志木中学校前の河川敷[毛利将範]
- ◆コアシナガバチ(巣)→9月9日(日)柳瀬川右岸・河童の像下流で[青木明雄]
- ◆チョウゲンボウ(1)→9月17日(月)午後4時、志木市幸町1丁目の上空[毛利将範]
- ◆アカタテハの幼虫の巣→10月2日(火)柏町の生垣のケヤキの幼木に沢山いた[天田眞]
- ◆アキアカネを食べるダイサギ(1)→10月12日(金)水谷田んぼで。ダイサギがしきりにアキアカネを捕っていました[山崎光久]
- ◆ウシガエル*特定外来生物(1)→10月21日(日)新河岸川・左岸(富士見市・栄橋上流のビバホーム向かいあたり)のワンド[毛利将範]
- ◆ハヤブサ(♀若1)→11月11日(日)幸町1丁目・東京電力志木支店の鉄塔の上。16日(金)朝7時20分頃にも。どこで繁殖したのでしょうか[毛利将範]



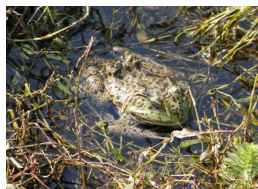
モクズガニ(8/19)[伊藤]



コアシナガバチ(9/9)[青木]



ハヤブサ(11/11)[毛利]



ウシガエル(10/21)[毛利]



ダイサギ(10/12)[山崎]



アカタテハの巣(10/2)[天田]

環境 ひとくちメモ(26) 伊藤 智明

「魚の国のしあわせ」プロジェクト

水産庁では、「魚離れ」を食い止めるため、消費拡大に取り組む「魚の国のしあわせ」プロジェクトを開始しています。

これは、周囲を海に囲まれ、多様な水産物に恵まれた日本に生活する幸せを実感してもらうために、生産者、水産関係団体、流通小売業者や各種メーカー、教育関係者、行政等、魚に関わるあらゆる方々が一体となって進めていくプロジェクトで、コンセプトは次のとおりです。

味わう：おいしく手軽に気軽に楽しめる魚食の提案。(6次産業化の推進など)

感じる：見て、触って、体験する。(魚の旬



写真：料理教室(出典:「魚の国のしあわせ」推進会議(平成24年7月31日開催)資料)

を知り四季に触れるなど)

楽しむ：魚のある生活を楽しむ。(朝市や魚釣りなど)

出会う：新たな発見に出会う。(海辺遊びや漁村との交流など)

暮らす・働く：食を通じて水産業を活性化する。(漁業や加工・流通業、造船業など)

(参考)

水産庁「「魚の国のしあわせ」プロジェクトについて」
<http://www.jfa.maff.go.jp/test/kikaku/sakanakuni.html>

☆会員状況

2012 年度更新済み会員 (11/22 現在)

個人正会員 45 (内新入会 3)

団体正会員 2

賛助会員 3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお願いします。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

彩の国南西部地域 NPO 連絡会

川の国応援団

彩の国みどりのサポーターズクラブ

(財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

情報満載！
当会のホームページ

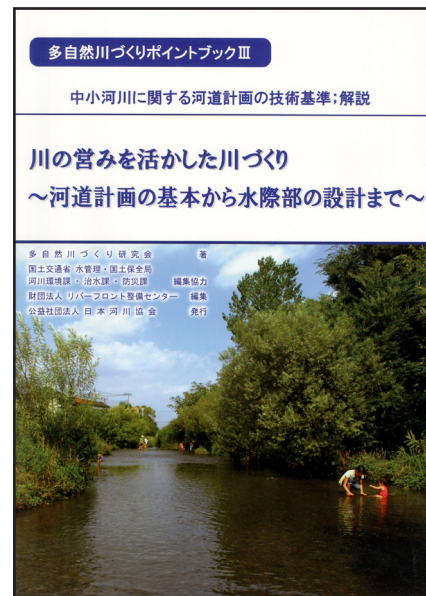
NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

新河岸川流域 川づくり懇談会の報告



毎年恒例の新河岸川流域に関わる県庁部局と市民団体の懇談会が、11月17日(土)に開催されました。

新河岸川流域の河川工事予定の説明(各県土整備事務所)、多自然川づくりの講演(リバーフロント研究所)、いい川・いい川づくりワークショップグランプリ受賞「人と人をつなぐ川-子どもたちが遊ぶ川は、きれいになる-」の紹介(黒目川に親しむ会)、総合治水対策の紹介(埼玉県河川砂防課)、協働による川づくりについての意見交換会(全体)など盛りだくさんの内容でした。

特に意見交換会では、「河川工事は計画段階から行政・コンサルタント・市民との合意形成が大切」、「県(河川管理者)だけでなく、市町村も積極的に河川行政に関わることが必要」、「河川法で掲げる治水・利水・環境に優劣はない」などの意見が出されていました。

なお、新河岸川流域のような都市中小河川の多自然川づくりには、日本河川協会が発行している『多自然川づくりポイントブックⅢ 中小河川に関する河道計画の技術基準;解説』(写真)が参考になります。

(伊藤智明)

ハチの仲間は種類が多く生態も様々です。今までに寄生バチや虫こぶを形成させるタマバチを取り上げましたが、一般にハチと聞いて思い浮かべるのはスズメバチ・アシナガバチ・ミツバチなど集団で暮らすハチで、刺されるので怖いといったイメージでしょう。

スズメバチとアシナガバチは同じスズメバチ科で、基本的な生態は似ています。越冬するのは女王バチだけで、春から1匹で巣作りを始め、産卵し、働きバチ（すべて雌）を育て、働きバチが成虫になると女王バチは産卵に専念し、その後の育児や巣の拡大は働きバチが行います。働きバチは昆虫類を捕まえ幼虫の餌にします。花の蜜や樹液も好みます。夏から秋にかけて集団は最大になり、やがて、新女王バチと雄バチが生まれ交尾した後、新女王バチは朽木や土の中で越冬します。他のハチはすべて死に絶え、巣は1年限りです。

大きな違いは巣の形と家族の数。スズメバチ

の巣は外皮で包まれた中に、幼虫を育てる育房が並んだ巣盤が何段か吊下がっています。オオスズメバチやクロスズメバチは土の中に巣をつくります。アシナガバチは巣盤が1段のみで外皮は無く育房は露出しています。育房の並びは中心から丸く広がるものと一方向に細長く伸びるものがあります。巣の素材は枯れ木や樹皮などの繊維です。

体長は種によって様々ながら、スズメバチは40mm～15mm位、アシナガバチも25mm～15mmで最大種のオオスズメバチを除けばあまり変わりません。アシナガバチは飛ぶときに足をぶら下げているのが名前の由来です。

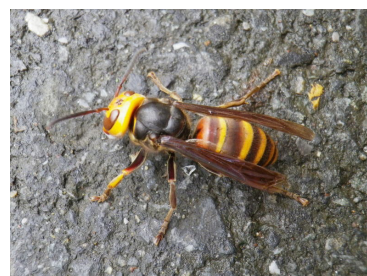
スズメバチは攻撃性が強いですが、特に巣に近づくと危険です。近づきすぎると飛び立ったハチがカチカチと威嚇音を発しますので、静かに離れるようにして下さい。アシナガバチはおとなしく直接巣を刺激しなければ大丈夫。花の蜜を吸っている時は安全です。



最も大型のオオスズメバチの女王。土の中で越冬していたのをたまたま発見



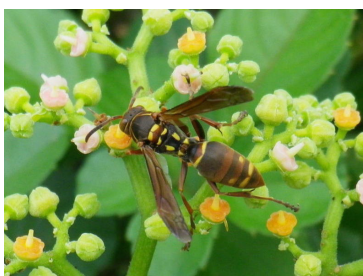
最も小型のクロスズメバチの女王。自宅の庭で越冬していた



良く見かけるコガタスズメバチ。他にキイロスズメバチも見かける



コガタスズメバチの巣。野外で見つけるのは本種が多い



ヤブカラシの蜜をなめるコアシナガバチ



コアシナガバチの巣。片側に伸びていき、反り返っている



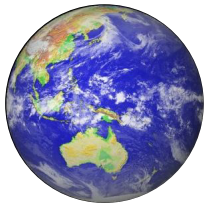
自宅の壁で集団越冬していたコアシナガバチ。春にはそれぞれが巣をつくる



セイトカアワダチソウの蜜を吸うフタモンアシナガバチ



キボシアシナガバチの巣。育房のふたが黄色い



地球と日本の自然 (7) 異常気象について

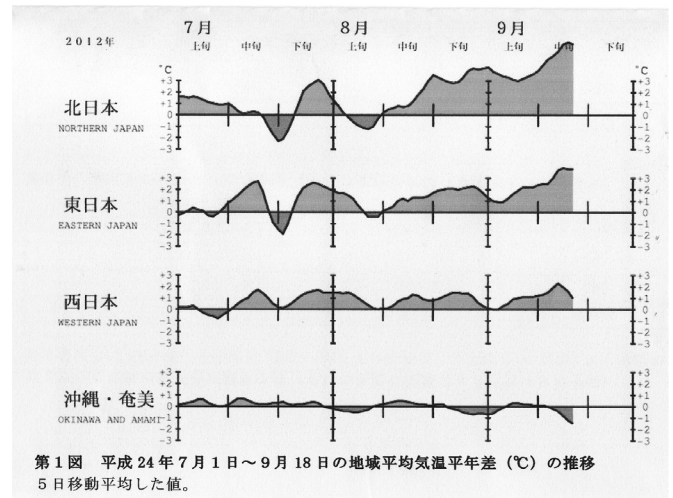
加藤 健二

前号「温暖化」の項で触れましたが、最近異常気象が多く発生し、かつて経験したことがない長期で激しい豪雨やアメリカの話と思っていた竜巻が筑波山の麓を襲うなど、たいへん驚く現象が続いています。

今号では「異常気象」とは何かという話から始めたいと思います。

言葉の遊びかもしれませんが、「異常」の反対語は「正常」と思いますが、気象にとって何が正常であるかは決められません。つまり、気象は変化を伴うものですから「正常気象」を定義することは困難のようです。そこで「異常気象」の定義は“過去30年の気候に対して著しい偏りを示した天候”（気象庁）といった一定の期間の発生の有無で判断しています。異常気象の定義は専門家にお任せして、私たちは日常生活で感じる「今までと違う」と感じる天候に関して考えて見たいと思います。

まず多くの人が感じているのは夏の暑さではないでしょうか。気象庁のデータをグラフで示しますが、これは本年（平成24年）の日本各地域の温度を平年との温度差で比較したものです。グラフ上より北日本、東日本、西日本、沖縄奄美の4箇所を示しますが、特に9月は平年との温度差は高く、どの地域も連続した夏日が続いたことを顕著に示しています。この感覚はますます暑くなっていると感じ、過去の流れと違うように思います。



さて他の現象を見ますと、局地例ですが都市部で起こるヒートアイランド現象はビルやコンクリートが熱せられて空気は急激な上昇気流となり、局地的なゲリラ豪雨をもたらします。たとえば東京都市部は郊外と比べ3～5度の温度差が発生し、上昇気流により竜巻や豪雨が発生します。

さて地球規模で見ますと、エルニーニョ現象が有名ですが、太平洋赤道付近で温められた海水が大気を温め、定常的な貿易風が起こらない時、海水温度はより高温となり大型低気圧の発生や種々の異常気象の要因となります。

気象は多くの原因が複合されますが、根本は他の地域に比べ温度上昇が発生し、その温度差が大気や海流の流動化を起こし、温度差を解消する方向で風や雨となります。その変化スピードが速くかつ規模が大きい時、異常気象であると言えます。なお各異常気象については気象庁HPに解説が掲載されていますので、ご参考としてください。

編集後記

◇「勝手にレッドデータ of 志木」でとりあげた野火止用水の跡。埋められたのはもう50年近くも前の昭和40年(1965)。かつて志木の人々の生活を支えた貴重なライフライン・野火止用水を川向こうに繋げたいろは樋はモニュメントとして残されています。この町の記憶を未来に繋げる良い知恵はないのでしょうか。(梟)

エコシティ志木通信

第68号 2012年12月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

**エコシティ志木
の
イベントカレンダー**
**2012年 2013年
12月→3月**



昨冬2月12日(日)「冬の渡り鳥を見よう」のようす

〈写真：青木明雄〉

会員募集中



親子で自然を楽しみたい人
地域の環境を守りたい人
志木まるごと博物館を楽しみたい人 ……

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

【ホームページ】 <http://kappa-no.net/eco-shiki/>
【Eメール】 eco-shiki@ff.e-mansion.com



- 特に記載のない場合、参加費は無料です。
- 予定は変わることがあるので、事前に問いあわせてください。
- 会員には毎月ハガキ等で、別途行事案内をしています。

■ボランティア活動に参加しよう



◆斜面林の手入れ（西原ふれあい第3公園）＜毎月第二土曜日＞

【日程】12月8日（土）／1月12日（土）／2月9日（土）／3月9日（土）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分に東上線側入り口の坂を登ったところ

【内容】西原ふれあい第3公園（旧・西原斜面林）の清掃・下草刈り・急斜面保全等の作業を行います。

◆斜面林の手入れ（いろは親水公園）＜毎月第四日曜日＞

【日程】12月23日（日）／1月27日（日）／2月24日（日）／3月24日（日）

【時間】いずれも9時30分～11時30分（雨天時は中止）

【集合】9時30分にいろは親水公園「こもればのこみち」あずま屋

（志木市本町2丁目／ルストホフ志木の隣）

【内容】「こもればのこみち」斜面林および新河岸川河川敷で、ごみ拾い・下草刈り・シュロの伐採・外来植物の抜き取り等の作業を行います。



◇上記の共通項目

【持物】軍手、作業できる服装（長袖・長ズボン・帽子）、あれば剪定用ハサミ・ノコギリ

【費用】無料

【主催】NPO法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【協力】志木市道路公園課 【問合】048-471-1338（天田）

■調べてみよう



◆柳瀬川・野鳥&川の生き物ウォッチング＜毎月第三日曜日＞

【日程】12月16日（日）／1月20日（日）／2月17日（日）／3月17日（日）

【時間】いずれも9時～12時（雨天時は中止）

【集合】9時に志木中学校前の柳瀬川・土手（志木市柏町3-2-2）

【内容】※種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。

（1）野鳥：柳瀬川に沿って約4km弱を散策しながら調査します。

＜持物＞双眼鏡、あれば野鳥図鑑

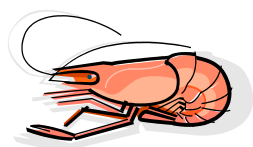
（2）川の生き物：柳瀬川で生き物・水質調査やごみ拾いをします。

＜持物＞川に入れる格好、あれば手網・魚類図鑑

【費用】200円／家族（会員・中学生以下は無料）

【主催】NPO法人エコシティ志木&（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【問合】080-3154-7056（毛利）



◆埼玉県内一斉ガンカモ調査 <柳瀬川エリア>

【日時】1月13日(日) 9時～11時頃(雨天時は順延 1/14(月・祝))

【集合】9時に志木大橋のたもと(下流の右岸側/テニスコート裏)

【コース】志木大橋～柳瀬川・新河岸川合流点まで

【持物】双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑

【費用】無料

【備考】種類がわからなくても参加出来ますのでご心配なく。

【主催】(財)埼玉県生態系保護協会 【柳瀬川担当】志木支部

【協力】NPO 法人エコシティ志木 【問合せ】048-473-4909(山崎)



■自然と文化を楽しもう

◆冬の野鳥観察会

【日時】2月10日(日) 9時～11時 (雨天時は中止)

【集合】東武東上線・柳瀬川駅前サミット前の「円形広場」

【持物】双眼鏡、防寒対策、あれば野鳥図鑑

【申込】不要

【費用】200円/家族(会員・中学生以下は無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木 & (財)埼玉県生態系保護協会 志木支部

【後援】志木市教育委員会生涯学習課

【問合せ】048-473-4909(山崎)



◆重要文化的景観―群馬県板倉町 見学報告会

【日時】12月23日(日) 13時30分～16時

【会場】いろは遊学館「第3研修室」

【内容】2011年に関東地方で初めて「国選定の重要文化的景観」となった群馬県板倉町への見学会および昨年と5月の予備調査の成果を含めて、全体的なまとめと今後の取り組みに活かす方法を考える報告会を開催します。当日は①報告書の発表、②ビデオ、写真映像を含めた見学者の体験発表を行い、さらに、志木地域の環境文化保全・振興に役立つ提案を行うための意見交換を行います。

【費用】無料

【主催】エコシティ志木・水塚の文化研究会

【問合せ】090-1990-4807(筑井・つくい)



◆新河岸川ぶらり散歩 ～岩淵水門から隅田川へ～

【日時】3月20日(水・祝) 9時30分～15時頃 (雨天時は中止)

【集合】9時30分にJR埼京線「北赤羽駅」浮間口

【内容】岩淵水門から隅田川沿いを歩く

【持物】お弁当、飲み物、歩きやすい服装

【費用】300円/人(会員100円/人、中学生以下は無料)

【主催】NPO 法人エコシティ志木 & (財)埼玉県生態系保護協会 志木支部

【問合せ】080-3154-7056(毛利)



会員募集中!! (詳細は裏面をご覧ください。)

◆8月◆

- 25(土) こもれびのこみち月例作業
26(日) 自然塾 トンボとチョウを見てみよう
26(日) 柳瀬川外来植物駆除作戦(8)
30(木) エコシティ志木通信印刷発行作業

◆9月◆

- 2(日) 水塚の文化研究会 板倉町見学ツアー
2(日) いろは遊学館利用者の会全体会
4(火) 柳瀬川外来植物駆除作戦(9)
6(木) 彩の国いきが大学春日部学園講師
8(土) 西原ふれあい第3公園月例作業
8(土) 南西部 NPO 育成支援セミナー 発表
9(日) 柳瀬川外来植物駆除作戦(10)
11(火) 志木三小柳瀬川総合学習(教室)
11(火) 新河岸川流域川づくり連絡会
15(土) 9月運営会議
16(日) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
16(日) 柳瀬川外来植物駆除作戦(11)
18(火) 志木三小柳瀬川総合学習(1班)
24(月) 志木小学校 エコクラブ
25(火) 志木三小柳瀬川総合学習(2班)
29(土) 生き物モニタリング調査中間報告会
30(日) いろは遊学館利用者の会全体会

◆10月◆

- 6(土) 西原ふれあい第3公園月例作業
7(日) 水塚の文化研究会 朝霞の湧水見学
13(土) いろは遊学館ふれあい祭り展示
13(土) べあもーる 辻銀杏で街あわせ展示
14(日) いろは遊学館ふれあい祭り展示
15(月) 宗岡三小柳瀬川総合学習(第2回)
16(火) コミュニティ協議会地域活性化委員会
17(水) 広報部会 通信編集会議
20(土) 12年度第4回理事会
21(日) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
21(日) 志木おやこ劇場総会
24(水) コミュニティ協議会理事会
26(金) 宗岡三小柳瀬川総合学習(第3回)
28(日) こもれびのこみち月例作業
30(火) 志木小学校柳瀬川総合学習(1班)

◆11月◆

- 3(土) 志木ぶらり散歩 宗岡の水との生活
4(日) 自然塾 ドングリと落ち葉で遊ぼう
4(日) 外来植物駆除作戦成果現場検証
7(水) 志木小学校柳瀬川総合学習(2班)
9(金) 新河岸川流域川づくり連絡会
10(土) 西原ふれあい第3公園月例作業
11(日) 朝霞県土 黒目川秋の川まつり展示
12(月) 志木小学校エコクラブ
13(火) 11月運営会議
17(土) 柳瀬川野鳥・川の生き物ウォッチング
17(土) 新河岸川流域川づくり懇談会
18(日) 志木市民まつりコミュニティ協議会展示
19(月) 志木小学校エコクラブ



NPO法人エコシティ志木



エコシティ志木に入会すると

☆仲間といっしょに環境まちづくりを実践できます

各部会や行事に自由に参加できます

☆次のものを受け取れます

- ①「エコシティ志木通信」 年4回
- ② 行事案内〈ハガキまたはe-mailで〉 毎月
- ③ 当会の発行物 無料または会員割引で

水と緑部会

斜面林の手入れ
こどもとおとなの自然塾
柳瀬川ウォッチング
環境調査
出前授業

まちづくり部会

志木まるごと博物館
「河童のつづら」
ぶらり散歩エコツアー
水塚の文化研究会

広報部会

「エコシティ志木通信」発行
ホームページ管理

■正会員 年会費＝個人会員 2,400円※
団体会員 5,000円

■賛助会員(個人・団体)

会費＝年額 1口 5,000円

★入会方法

氏名、住所、電話番号を明記し、郵便振替等で年会費を納入してください。

〈振替番号〉00510-4-13225 〈加入者名〉エコシティ志木

※ 同一家族の2人め以降は1,200円、同一家族の高校生以下無料。
年会費の有効期間は、4月～翌年3月末です。
10月以降に新入会の年会費は上記の半額です。

埼玉県NPO基金「団体希望制度」 寄付募集中

★寄付方法

1. エコシティ志木を指定して寄付できます
2. 環境など、活動分野を指定して寄付できます
3. NPOを広く支援するための寄付ができます

★寄付金の税法上の優遇措置

1. 個人 所得税・個人住民税が一定額控除されます
2. 法人 寄付金全額を損金に算入できます

詳しくは → **048-830-2839** (埼玉県 共助社会づくり課)
<http://www.saitamaken-npo.net/html/kikin/>